

大学入試や
教育方法が
変わる

主体的な学びで次代に生きる力を

最近、良く耳にする「アクティブ・ラーニング」。子どもたちの将来に、どんな影響があるのでしょうか。

アクティブ・ラーニングについて、さらに、アップ教育企画の取り組みについて、

レゴ®スクールを担当するアップの橋本成隆さんに、聞きました。

アップ

アップでの取り組み



「真の理解は実体験から得られる。という考えのもと、作ることで学ぶレゴスクール」



「自分で発見したことは記憶に残る。を信念に持つサイエンスラボ」

Q1

今、なぜ注目されるのですか？

A 「新しい時代に必要とされる人材の育成に、創造性を併せ持つ人材を育てたい」というのが、文科科学大臣の発言から、アクティブ・ラーニングが注目されるようになった理由です。また、「日本の子どもたちが、根拠や自分の考えを述べるのが苦しい」という声も、アクティブ・ラーニングが注目される理由の一つです。次期の学習指導要領の改訂では、「育成すべき資質、能力の三つの柱」として、**「深い理解、批判的思考、協働的学び」**が示されています。これらは、アクティブ・ラーニングの導入が予想される理由です。さらに、2020年以降の大学入試では、知識に加え思考力や判断力、表現力などが試されるようになるため、ここでもアクティブ・ラーニングへの期待が高まっています。

Q2

学び方を変えることのメリットは？

A 近い将来、人間に代わってコンピュータが活躍する世界で、人間に求められるのは、多様なスキルを持つ人が協働し、新たな課題を発見し、解決すること。また、グローバル化が進むと、個々の知識・技能に加え、創造性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、協調性が求められる。これらを身に付けるには、どのよりよい人生を送ることに

に、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）

【どのように学ぶか】
アクティブ・ラーニング

- ・問題発見・解決
- ・自らの考えを広げ、深める対話的な学び
- ・主体的な学び

何を知っているか、
何が
できるか
(個々の知識・技能)

知っていること、できることを
どう使うか
(思考力・判断力・表現力など)

アクティブ・ラーニングの定義

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。(文部科学省)

Q3

実際には、どんなことをするのですか？

A アクティブ・ラーニングに、決まった形はないので、子どもたちに付けさせたい力を考え、指導法を選べます。アップでも、それぞれの部門でアクティブ・ラーニングへの取り組みを始めています。レゴスクールでは「真の理解は実体験から得られる」という考えのもと、作ることで学ぶレゴスクールの取り組みを重視。自分の課題に、どう取り組んでいくかを見守る姿勢です。進学館は、瞬時の状況判断を要する数学のゲーム「アルゴ」で、論理的思考力を鍛えます。このように、アップでは「次代に生きる力」を育て、子どもたちの将来の自己実現をサポートしています。

【図1】(文部科学省が示す「育成すべき資質、能力の三つの柱」とその学習イメージを元に作成)